

2016年度 上期決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2016年11月15日(火)
2. 場所 : 本社 会議室
3. 質疑応答内容:

<Q1>

グラスライニング製反応機は、今後どのように拡販していくのか？

<A1>

従来、反応機は注文に応じて受注生産してきたが、新型標準反応機はコストダウン、納期短縮ができる標準タイプである。従来品に加え、新型標準反応機を拡販し、売上を伸ばしていきたい。また、多田化学機器工業(株)から一部継承したクランプレスろ過機や覗流(しりゅう)器によるメニューの強化、ロンドウック工場での生産によるコストダウンにて、価格競争力を強化し、シェアアップを目指したい。将来的には国内だけではなく、海外でもシェアを増やしていきたいと考えている。

<Q2>

冷却塔で更なるシェアアップを目指すとするが、市場でのシェアは？  
また、どのようにシェアを伸ばしていくつもりなのか？

<A2>

工業用・地域冷暖房用冷却塔のシェアは、概ね45%程度である。  
新規案件よりも、既存設備の更新・延命化工事をしっかりと確保していく。地域冷暖房用冷却塔については東京オリンピックに向けての需要も想定され、そういったところでシェアを伸ばしていきたいと考えている。また、技術開発によるコストダウンで価格競争力を強化し、シェアアップを図っていきたい。

<Q3>

英国案件は、英国のEU離脱の影響により不透明感が増したとのことだが、どの点が不透明なのか教えて欲しい。

<A3>

EU離脱という点からすると、ポイントはふたつある。ひとつは、ヨーロッパ、特に英国やポーランドでは、発生したごみが埋立処分されている比率が高いが、その埋立比率を2020年までに一定比率以下とすることを求めたEU指令が出されている。その指令に対応する形でごみの焼却・発電事業への営業構築を行ってきたが、EUを離脱するとその規制がなくなるので、英国がどう対応するか読めない部分がある。もうひとつは、EU域内からの調達品への関税で、為替も見えないところがある。これらの点はすぐに当社が営業構築してきた案件に影響があるわけではないが、事業環境として不透明な要素が加わったということである。

<Q4>

ベトナム・ロンドウック工場におけるグラスライニング製反応機の本体生産は、いつから行うのか？

<A4>

現状は熱交換器等の部品を生産している。反応機本体の生産については、明確な時期は設定していないものの、現地スタッフの技術力向上、周辺地域でのニーズ見極め、また、国内生産拠点との協業をどうするかなど考えながら、できる限り早い段階で始めたいと考えている。

<Q5>

モロッコでの COP22 会議が気になるとのことだが、当社との関連性については？

<A5>

当社と COP との関係でいうと、現状の先進国が資金を拠出して新興国の環境インフラ整備にあてていくといったスキームについて、今回のモロッコの COP22 会議において、アメリカが関心ない、関係ないと言ったとたんに新興国の関心が低下する懸念がある。高邁な将来にわたっての環境問題への取り組みが、このようなことで崩れるとは思いたくはないが、やはり一定のマイナス影響がありはしないかと感じている。

<Q6>

ユーグレナ専用 WEB サイトを立ち上げるとのことであるが、掲載される内容について教えて欲しい。

<A6>

ユーグレナについては、まずは食品原料を販売するところから着手しており、今年度中には原料販売を実現したいと考えている。WEB サイトについては、ユーグレナの特長、期待される分野、事業化に取り組んだ経緯などを紹介する予定である。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。
--

以 上